

全体構想図の作成と複数年での広域柵（集落柵）設置計画

村田町沼田地区



イノシシ

地区の概要

- ・多面的機能支払交付金の活動。
- ・周辺の地区では、集落ぐるみでのワイヤーメッシュ柵が整備されてきており、沼田地区にイノシシが回り込んでくるのが懸念されている。
- ・地区の南側にあるゴルフ場でも、周囲を囲うようにワイヤーメッシュ柵が設置されている。
- ・関場・沼田地区の圃場整備の計画が進んでおり、令和7年度に工事を開始予定。

取り組み前の状況

● 環境

- ・北側、西側、南側の三方が山に囲まれており、その中央には平坦な圃場地帯が広がっている。三方の山側には放射状に数本の沢筋が伸びており、住宅や圃場がある。
- ・住宅のほとんどは沢筋や山際に集中しており、住宅周辺にも圃場はあるが、上流側では藪化した耕作放棄地が見られる。
- ・入り組んだ地形ではあるが、住宅も同じ場所にあることで、山側も生活圏として使っていた。住宅が離れたところにあつて、圃場だけが沢筋にあるような場合は、営農状況の変化が柵の設置位置に大きく影響するが、沼田地区は住宅もあるため、営農状況が変化しても守るべき範囲の変化が比較的小さく済むことが考えられる。



平坦な圃場地帯と周辺の山々



山側の圃場と住宅



山側の耕作放棄地

● 被害と対策

- ・地区の南隣にあるゴルフ場でワイヤーメッシュ柵を設置してから、イノシシが増えたように感じている。
- ・山側は三方全てでイノシシ被害が発生しており、圃場地帯にも出没するようになっている。
- ・個別にワイヤーメッシュ柵や電気柵、ネット柵などが設置されていたが、地際を固定するなど効果的に設置されている柵がある一方で、くぐられるなどして被害が発生している柵もあり、設置状況は個人個人によって様々であった。



イノシシによる掘り起こし被害



パイプで枠組みされたネット柵



トウモロコシ被害

取り組み内容

ワークショップ① 対策の基本を学ぶ研修会

- 生態や対策の基本などについての座学研修を開催。



ワークショップの様子

広域柵（集落柵）約 28km
グループ柵 約 63km
個別柵 約 82km
設置ルートと距離の目安があると考えやすい！

集落点検

ワークショップ② 集落点検マップ作成と対策案の検討

- 被害状況や移動経路、誘引物などの現状を把握するため、集落内を点検。
- 現地記録した情報を地図に落とし込み、集落点検マップを作成。竹林や栗などの誘引物があったが、特に柿の木が山際を中心に多くあった。
- 対策の検討に入る前に、方向性についてイメージしやすいよう、広域柵（集落柵）、グループ柵、個別柵を設置した場合の設置ルートと距離の案を提示した。



集落点検の様子（柿の木）



作成した集落点検マップ



設置イメージ図

ワークショップ③ 対策計画の作成

- 検討の結果、ワイヤーメッシュ柵で集落全体を囲うように、合計で 20km 以上の設置計画となった。
- 設置初年度（令和 5 年度）の設置を参考にしながら、令和 6 年度以降もおおよそ山際に設置していき、1つの目安として、ゴルフ場までの約 10km（図中白線）を 1~2ヶ年で設置する計画となった。ゴルフ場に面する南側の約 9km（図中黄線）は、ゴルフ場でワイヤーメッシュ柵を設置していることもあり、その後の様子を見ながら必要に応じて順次設置していく計画となった。
- 設置スケジュールを、住民と村田町で確認した。

スケジュールの確認

	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
導入計画	10月		
導入準備	準備完了		
導入実施		R6	
導入完了			
その他	5月		
備考	山崎		



全体構想図（図中の距離は地形の起伏などを考慮していない）

距離を区切ることで
心的負担を軽減！

成果と取り組みのポイント

全体構想の“見える化”による合意形成

合意形成に至った転機としては、地図によって全体構想図（対策イメージ）を“見える化”したことで、検討しやすくなったことが挙げられる。元々、圃場ごとにワイヤーメッシュ柵や電気柵などが様々設置されており、個別での対策意識がある地区ではあったが、入り組んだ地形もあって、共同で対策をするイメージがしにくい環境であった。

集落ぐるみの対策は、基礎知識や地域の問題点などが共有されていない状態では、誰と一緒にどんな対策に取り組んでいくのかを、住民同士が自ら考えることは難しい。沼田地区は、ワークショップによる基本的な対策知識の共有、集落点検による問題点の共有、対策案を“見える化”することによる対策イメージの共有と、各開催全ての結果が、全体構想図の計画に至ったと言える。